

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大学名	早稲田大学
整理番号	A13
構想名	Waseda Ocean構想 ～開放性、多様性、流動性を持つ教育研究ネットワークの構築～

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、早稲田大学の中長期計画である「Waseda Vision 150」の延長線上に位置付けられており、高い志と人間力・洞察力を持った多様なグローバルリーダーの育成や、独創的研究の推進を通じて、世界を牽引する大学の構築を目指すものである。</p> <p>構想の進捗状況については、概ね計画に沿った取組が進められているものと判断する。特に、卓越した研究分野創出のため、6つのモデル拠点を選定し、資金を集中投下して国際的評価を高めていくという戦略的な取組を着実に進めることにより、QS分野別大学ランキングの飛躍的向上やQS Graduate Employability Rankingsの高評価という目覚ましい成果を挙げている点は高く評価出来る。また、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)、ワシントン大学、Quantative Techniques and Economic Management (QTEM)といった海外の大学やコンソーシアムとの連携によるプロジェクトやジョイントスーパービジョン(JS)プログラムの開始、新たな人事制度であるジョイントアポイントメント(JA)、海外大学のトップ研究者との共同教育研究等を通じた人材育成等が計画どおりに行われている点も評価に値する。</p> <p>大規模大学であるにもかかわらず、総長のリーダーシップの下で決定した戦略を速やかに実行出来る体制が整備され、「経営戦略本部」等の意思決定機関に外国人を含む学外有識者の声を効果的に反映させている点や、財政支援期間終了後の事業継続を見据え、寄付金や外部資金の増加による財政力の増強を図っている点も、特筆出来る成果と言える。</p> <p>一方で、目標の達成状況については、外国人教職員や女性教員、全学生に占める外国人留学生の割合が伸び悩んでいる点が懸念される。また、日本人学生に占める海外留学経験者数や大学間協定に基づく派遣日本人学生数が数値目標を下回っており、改善策の策定が必要である。制度面においても、アカデミック・パスの柔軟化、GPAの活用、大学院におけるシラバスの英語化、テニユアトラックの導入等に課題が残されていることから、今後、より柔軟な検討と対策が望まれる。</p>	